

京都 八瀬
瑠璃光院
るりこういん



「こころ和む。からだ憩う。いのち癒す。」



院内には樹齢百年を超えるあせび
数百本が可憐な花を咲かせます

三条実美公ゆかりの瑠璃光院

毎年、新緑の美しい春、紅葉の鮮やかな秋に特別公開しております。特別公開期間は季節により異なりますのでお問い合わせください。「瑠璃の庭」「臥龍の庭」「山露路の庭」など種の異なる三つの名庭をご堪能いただけます。



叡山電鉄・八瀬比叡山口駅下車 橋を渡り徒歩5分

瑠璃光院

〒601-1255 京都市左京区上高野東山55番地
<http://rurikoin.komyoji.com/>

やすらぎの郷、八瀬「瑠璃光院」由緒
山と溪谷がおりなす風光明媚な「八瀬」の地は、古来「矢背」とも記されるように、壬申の乱で背中に矢傷を負われた大海人皇子(天武天皇)が当地の釜風呂で傷を癒されたと伝わり、平安時代の昔から貴族や武士に愛された保養地でした。そんな「やすらぎ」の郷にひっそりとたたずむ「瑠璃光院」は、知られざる隠れた名刹でしたが、近年、季節限定で一般公開されるようになり、多くの参詣者を集めています。二万二千坪もの広大な寺域に建つ格調高い数寄屋造りの書院は京数寄屋造りの名人と称された中村外二、自然を借景とした庭園は佐野藤右衛門二統の作と伝えられます。春には若芽から移りゆく青もみじと、樹齢百年を超える数百年の花馬酔木あしびの群生地として、また、秋には紅葉の名所としても名高く、異なる種類のカエデの木々が黄、橙、桃、紅色などに移ろいながら、日々変わりゆく表情を見せてくれます。



臥龍の庭から臨む喜鶴亭

八瀬逍遙、風雅有情。

花馬酔木と青もみじがまばゆい春、一面錦に彩られる秋…。

豊かな自然と日本情緒あふれる建造物や名庭があやなす四季折々の興趣。



一瞬、瑠璃色に輝く瑠璃の庭の泉石



鯉の朱と苔のみどり

山門

叡山電鉄の八瀬比叡山口駅より高野川の清流に沿い、橋を渡ると瀟洒な姿が目に入ります。

山露路(やまろじ)の庭

苔むした庭から見え隠れする茶庵と十三重の石塔。よく手入れされた数十種のカエデが、春の青もみじ、秋の錦繡を競い合います。

玄関

池に掛かる石橋から、泳ぐ鯉を見下ろせば、すぐそこは玄関。数寄屋造りの優雅さに期待が弾みます。

書院

典雅な中にも匠の技が光る名建築。「瑠璃の庭」を一望して、至福の時がゆるやかに流れます。

瑠璃の庭

二面に苔の絨緞で覆われた当寺の主庭。苔の間をぬって二条のせせらぎが優美な曲線を描き、清らかに流れます。

臥龍(がりょう)の庭

今にも天に駆け昇ろうとする龍を水の流れと石組で躍動的に表した池泉庭園。佇む人の心を解き放ち、昇運の兆しをもたらします。

茶庵「喜鶴亭」

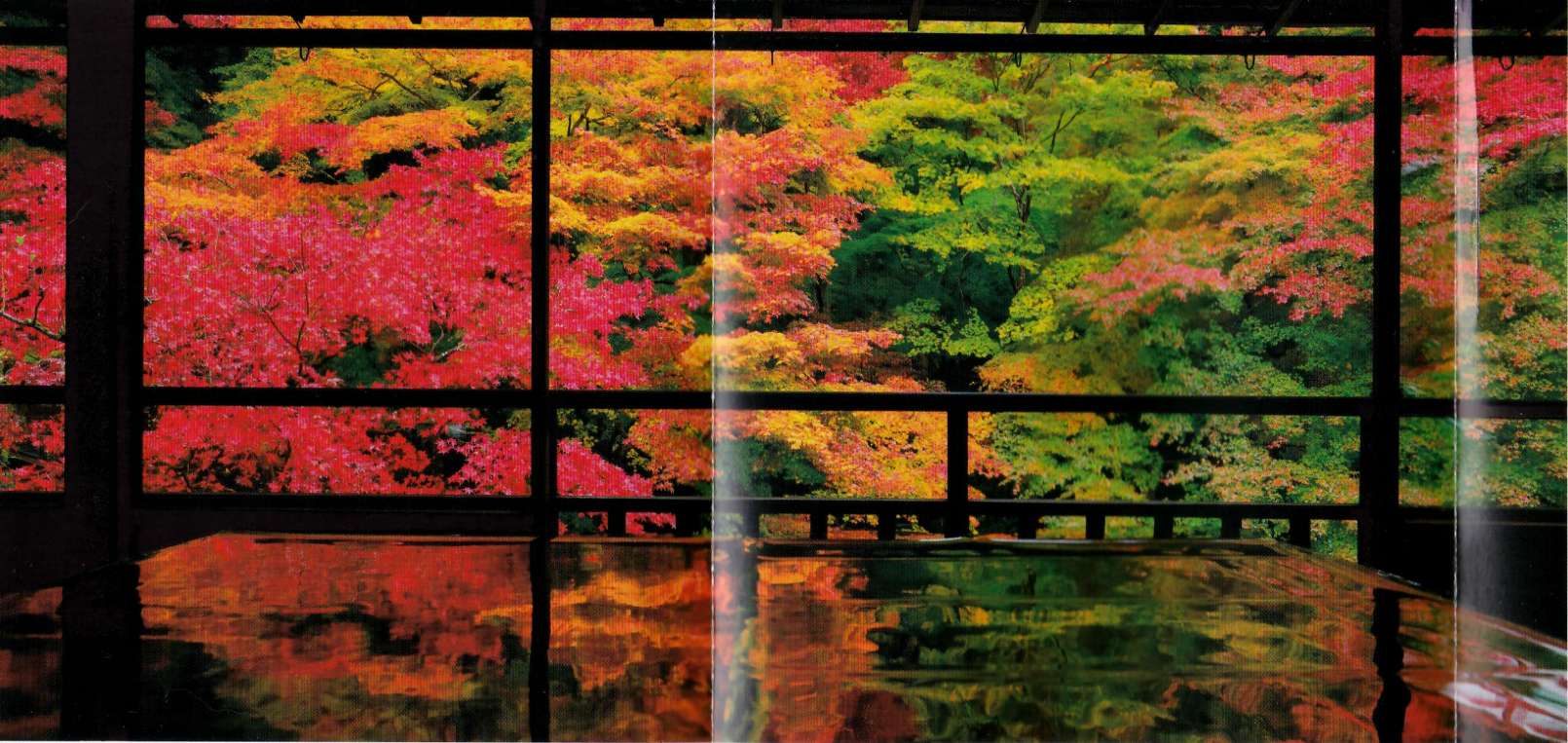
三条実美公ゆかりの由緒ある茶室。和敬静寂の精神を映す千家第六代覚々斎原叟好みの佇まい。

花馬酔木と紅葉

春は白いつぼ形の可憐な花を咲かせる樹齢百年を超える花馬酔木の花。秋は異なる種類のカエデの木々が錦織の景観を見せてくれます。

八瀬名物「かま風呂」

日本式蒸し風呂の原型であり、有名な「八瀬のかま風呂」の現存する希少な遺構。見学も可能です。



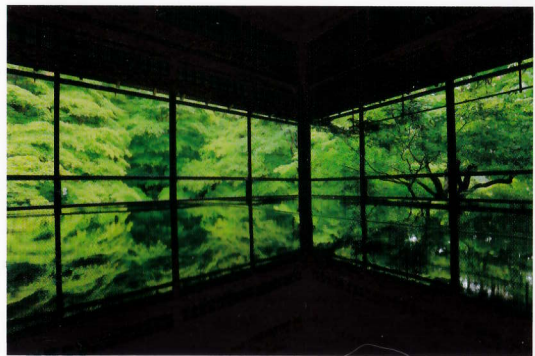
書院二階より臨む



光のシャワー、ピンクの楓、瑠璃の庭。この一時の美しさは言葉に表せません。



茶庵「喜鶴亭」から臨む臥龍の庭



書院二階 写経机に映り込む青もみじ